

常日頃、「若者のクルマ離れ」に対して何かできないか模索してきた太田さんだが、ある日、自分の会社の若い社員たちと話をしているうちに、面白いアイデアがひらめいたという。「ネクスト・カー・ジェネレーション (NCG)」という次世代カーメディアを立ち上げるといふのだが、果たしてそれはどのようなものなのか？ 後見人としてここで紹介してもらおうことにした。

「ネクスト・カー・ジェネレーション (NCG)」という新しいウェブメディアを発足させた。「クルマ離れなんて言わせない！ by 大学生プロジェクト」が正式名称となる。

自動車ジャーナリスト
若手不在でいいのか？

きっかけは一年ほど前のこと、モータージャーナリストの会の集まりで、何か議題を提案してくださいと言われた。それでオレは、若いジャーナリストが減ってきたから若者を育てたらどうでしょうと提案した。自分を含めて自動車評論家やライターの高齢化が進み、業界で「若手」といわれる者も40代という現状だ。このままではこの業界は、人通りのないシャッター街のようになってしまうか。それを憂慮している。

若手が育たない一因として、知名度や実績がないとメーカーの試乗会に呼んでももらえない。すでに雑誌に寄稿しているライターであっても、そう多くは呼ばれない。でもクルマについて書くのに実車に乗ったことがな



■文：太田哲也

いのじゃ説得力がない。そこでオレたちが若手を試乗会に連れていって一緒に試乗したらどうかと考えたのだ。ところが、議長から「それは会としてやることではないから、

いつもそばに
クルマママが。

のときはレースドライバーとして、30歳からはモータージャーナリストとしてさんざやってきた。今は自分よりも人を輝かせることに目が向いている。

まあその裏には、元来がモノグサで、誰かにやらせれば自分がやらなくて済むというヨコシマな考えもある。

なので「個人でやれ」と言われると本末転倒なのである。自分ではやりたくないんだよ。あれから気になってはいたが、良いアイデアもなく過ごしてきた。ところがチャンスがめぐってきたようだ。

最近うちの会社でインターンやアルバイトを希望する大学生が増えてきた。現在は社員スタッフも含めて20代前半が「7人の侍」じゃないけどちょうど7人いる。その中でとくにドライビングレッスンのイベントを担当している大学生の「O」は、最近の若者には珍しく、クルマが大好きで、しかも文章を書くのも好き。

●若者を輝かせる
オレの場合は、「自分を輝かせる」という点においては、20代



▲大学生による新メディアを立ち上げた「7人の侍」のうちの5名。代表は桜美林大学3年の大塚さん (一番左)

そうにする。

太田「何、クルマ雑誌とかすきななの？」

大学生O「好きです」

「じゃあ、モータージャーナリストとかやれば」

「えっ、やれますかね？」

「それは本人次第だろ」

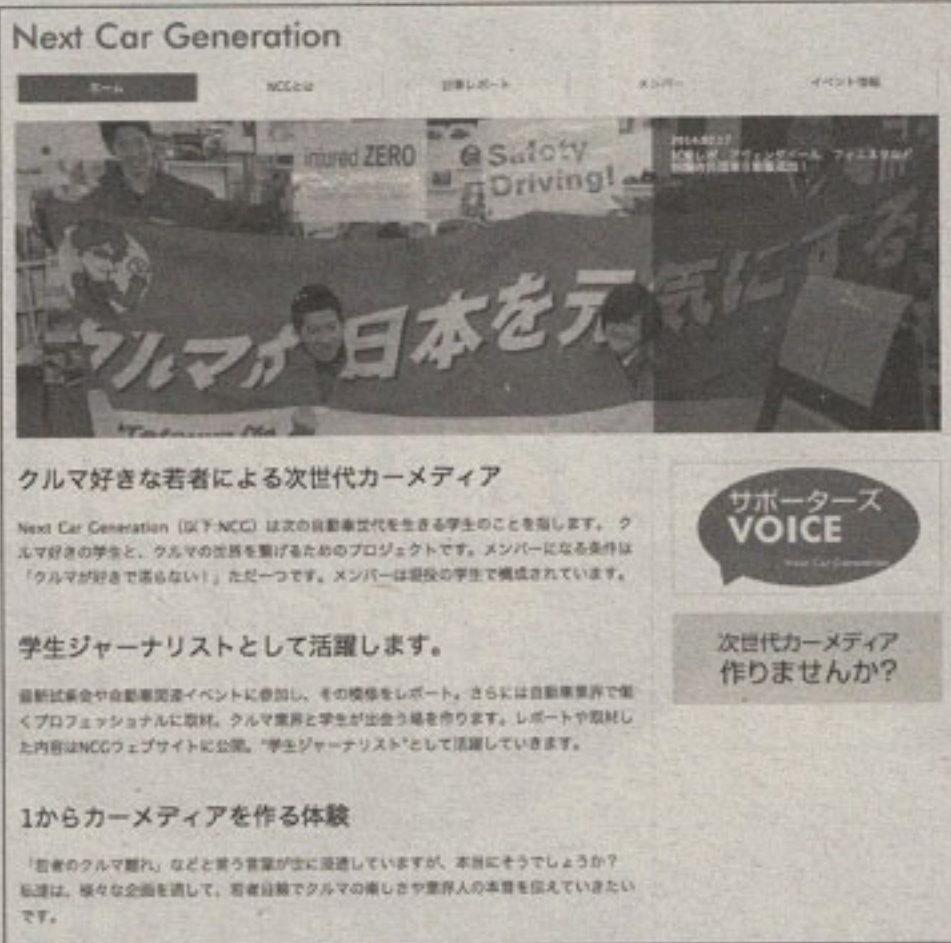
「じゃあ、やりたいです」

それでJAA (日本自動車輸入組合) 主催の試乗会に連れていって、さすがにシロートに運転させるわけにはいかないの、助手席から7、8台を体験させてみた。その後、試乗レポートを書いてみると言ったら書いてきた。当然、専門性は乏しいが、走行性能と離れた視点が新鮮でそこそこ面白い文だった。

若者のクルマ離れを
食い止めるためには…

「若者のクルマ離れを食い止めるため、なんかやりなよ。イベントに大学生を呼ぶ方法とか考え

「クルマ好きなきな若者による次世代カーメディアを新設。若者のクルマへの関心をもつと高めたい！」



▲ネクスト・カー・ジェネレーションのホームページ。すでに記事レポートとして、大学生のJAIA（輸入車試乗会）助手席試乗インプレッションが掲載されている。今後、コンテンツを拡大していくということだ

「いいね。それ、やろう」
 そう言ったら、ドライビングレッスンの参加料に学割制度を持ち込むアイデアを考えてきた。「いいね。それ、やろう」
 ただクルマを持っていない大学生もいるわけで、もう少し広い層にアプローチした方がいい。その点はどうする？と言ったら、黙ってしまった。
 じゃあ、みんなで考えな。と再度宿題を与えると、うちの「ア人の見習い侍」が集まって、ま

てみな」
 ずはウェブサイトをやることを考えてきた。これが「NCG」のスタートだ。
 大学生から見て魅力的なウェブサイトをやるという。コンテンツとしては若者による試乗インプレッション、雑誌編集長や自動車メーカー業界人などへのインタビュー、そしてクルマ業界への就職への道筋を探る調査など。他の大学にも大学生記者を募って、多くの大学生でこのウェブサイトを運営していくイ

メージだそう。さっそくコンテンツのページ構成を彼らに考えさせ、会社のスタッフにホームページ作成を依頼してあげて、初期段階が立ち上がった。
 しかしこうしたものは個人がバックアップしては続かない。新メディアを回っていかせるためには、資金はどうするかというビジネスも考えなければならぬ。
 そもそもそんなにクルマ好きではない大学生がやってきたとしても、彼らをクルマ好きにする仕組みも作らなければ。いったい、どうやったら、若者をクルマ好きにできるのか？

●女にモテたいが出発点
 ところで、現代の大学生たちと付き合ってみて感じるのは、（おやし臭い言い方だが）最近の若者はハンダグリー精神がないというか、昔だったらクルマを手に入れるために昼も夜もバイトして生活費は切り詰めて、何とか買うところまで持っていくものだったろう。そういうエネルギーをあまり感じない。
 大学生Oもそうで、クルマ好きなのに、しかも家に駐車スペースはもう1台分あるのに、自分のクルマを買うという発想がない。オレたちの頃は、家のクルマに乗るのはおっさん臭くて格好悪いと思ったものだ。
 テレビで尾木ママが言っていたが、最近の成人男性の80%は彼女がいない、50%は女の子と付き合ったことがないそう。草食系どころか植物系というらしい。それが本当だとしたらより深刻だ。若者のクルマ離れはクルマだけでないからだ。
 昔は、女にモテたい、キスやセックスするにはクルマが必要。全員がそうではないが、オレのまわりはそんな単純思考がほとんどだった。
 今、若者が女の子とセックスしなくてもいいやと考えているとしたら、いったいどんなニンジンをおぼら下げるべきか、おじさんには正直、よくわからないのだよ。

●みんな、考えてくれ
 とりあえずウェブサイトに關しては、キラリコンテンツを考えたい。何か良いアイデアはあるかな。
 たとえば雑誌と連動して、自動車評論家と同じ車に乗せて記事も書かせてみて、どちらが面白い投票を募る。あるいはトヨタ賞とか日産賞とかを設けて最優秀インプレッションを表彰する。さらに投票してくれた年齢層とか性別などを分析して、どういう人がどういう傾向にあるかをリサーチする。それを元に、さらに魅力的なコンテンツを再構築する。なんてのはどうだろう。
 あるいはクルマ離れを食い止めるためにはどうすればいいか、という直球のテーマを設けて論文を募集、それに対して懸賞を出す。
 オレが考え付いたアイデアはこんな程度だが、読者の中でも良いアイデアがあったらぜひ提案してほしい。
 そうだなあ、やっぱりあとは学生に考えさせよう。人を育てる。若者をその気にさせる。それもネクスト・カー・ジェネレーションのテーマだろう。

さっそくコンテンツのページ構成を彼らに考えさせ、会社のスタッフにホームページ作成を依頼してあげて、初期段階が立ち上がった。
 しかしこうしたものは個人がバックアップしては続かない。新メディアを回っていかせるためには、資金はどうするかというビジネスも考えなければならぬ。
 そもそもそんなにクルマ好きではない大学生がやってきたとしても、彼らをクルマ好きにする仕組みも作らなければ。いったい、どうやったら、若者をクルマ好きにできるのか？

●女にモテたいが出発点
 ところで、現代の大学生たちと付き合ってみて感じるのは、（おやし臭い言い方だが）最近の若者はハンダグリー精神がないというか、昔だったらクルマを手に入れるために昼も夜もバイトして生活費は切り詰めて、何とか買うところまで持っていくものだったろう。そういうエネルギーをあまり感じない。
 大学生Oもそうで、クルマ好きなのに、しかも家に駐車スペースはもう1台分あるのに、自分のクルマを買うという発想がない。オレたちの頃は、家のクルマに乗るのはおっさん臭くて格好悪いと思ったものだ。
 テレビで尾木ママが言っていたが、最近の成人男性の80%は彼女がいない、50%は女の子と付き合ったことがないそう。草食系どころか植物系というらしい。それが本当だとしたらより深刻だ。若者のクルマ離れはクルマだけでないからだ。
 昔は、女にモテたい、キスやセックスするにはクルマが必要。全員がそうではないが、オレのまわりはそんな単純思考がほとんどだった。
 今、若者が女の子とセックスしなくてもいいやと考えているとしたら、いったいどんなニンジンをおぼら下げるべきか、おじさんには正直、よくわからないのだよ。

●みんな、考えてくれ
 とりあえずウェブサイトに關しては、キラリコンテンツを考えたい。何か良いアイデアはあるかな。
 たとえば雑誌と連動して、自動車評論家と同じ車に乗せて記事も書かせてみて、どちらが面白い投票を募る。あるいはトヨタ賞とか日産賞とかを設けて最優秀インプレッションを表彰する。さらに投票してくれた年齢層とか性別などを分析して、どういう人がどういう傾向にあるかをリサーチする。それを元に、さらに魅力的なコンテンツを再構築する。なんてのはどうだろう。
 あるいはクルマ離れを食い止めるためにはどうすればいいか、という直球のテーマを設けて論文を募集、それに対して懸賞を出す。
 オレが考え付いたアイデアはこんな程度だが、読者の中でも良いアイデアがあったらぜひ提案してほしい。
 そうだなあ、やっぱりあとは学生に考えさせよう。人を育てる。若者をその気にさせる。それもネクスト・カー・ジェネレーションのテーマだろう。



▲本誌とのコラボでも行われているドライビングレッスンなども、今後は若い人たちに興味を持ってもらえるようなイベントを盛り込んでいきたいとのこと